

みんなの 声

投稿テーマ **気がつけば春。〇〇に感じる春の到来。**

毎年、山菜をくれるおじちゃんがあります。天ぷらにして持って行くので「調理をしてくれ」ということなのかなと思って、毎年調理をして持って行きます。「ギブ&テイク」ができる「win-win」の関係かなと感じています。

投稿者 河井継之介さん

花粉症持ちで集まって密室映画鑑賞会!おみやを持ち込んで花粉を持ち込まず。これ鉄則。

投稿者 春が恋しいさん

なーんか、車の数が多いなー! 道路が渋滞気味になるなー! と、思う頃が春。春休み、新年度、新生活の準備でみんながそわそわウキウキの時期ですね。だからこそ慎重に、譲り合いの気持ちを持って運転しましょうね。

投稿者 春待ち草さん

昔からの集落では春は大忙し! 豊作祈願の春祭り、消防団、子ども会、などなどが一斉に動き出します。年度末の行事と花見まで重なったりして、正直大変ですが、この時期が一番いろいろな人と会えるかもしれません。

投稿者 新組地区むすび隊 恩田富太さん



随分昔の話になりますけどね、母と桜餅を作った記憶があります。昔はあのしょっぱい葉っぱが苦手でしたが、今では大好物です。手際よく作り方を教えてくれた母も今年で87歳です。

投稿者 キミさん

寄せられた投稿は
つなラジで
読まれるかも!

投稿募集 4月の投稿テーマ **新生活、〇〇に助けられました。** [募集期間] 3/21~4/20

投稿方法 投稿フォームを使う QRコードから投稿フォームへアクセスしてください。

協働センター窓口で投稿する 協働センター窓口を設置されている「みんなの声」コーナーからも投稿できます。

つなラジ 週替わりで市民活動団体を紹介するFMながおかのラジオ番組。
■放送局: FMながおか (80.7MHz)
■放送日: 毎週月曜日17時頃~(10分間) ※第5月曜日を除く

column 市民活動・虎の巻

長続きの秘訣は参加の「気軽さ」

与板地域むすび隊 田中洋介



若者がはじめた月に1度の「早朝ゴミ拾い」活動のモットーは「気軽に参加できる」「家族で参加できる」こと。活動が、長続きして楽しめる秘訣は、①毎月という比較的長い周期、②その日の都合や気分次第で参加してもよいくらいという自由さです。気軽さからか、和気あいあいと多世代で集える月に1度の楽しみとなっています。

information センターからのお知らせ

ながおか市民活動フェスタ2017 参加団体募集スタート!

市民活動団体が一堂に会するおまつり「市民活動フェスタ」を一緒に盛り上げてくれる団体を募集します。初参加大歓迎! 日頃の活動をPRできる絶好の機会です。



【日時】9月9日(土) 【会場】アオーレ長岡
【参加料】無料 【申し込み】5月10日(水)まで
【内容】活動紹介ブース、音楽やダンスなどのステージイベント
(グループでの発表に限る)、飲食、販売など
※企画運営をお手伝いできる団体大歓迎です。

●問い合わせ=ながおか市民活動フェスタ事務局
(ながおか市民協働センター内) Tel.39-2020

らこら

Racotte
vol.52

発行 ● ながおか市民協働センター

2017
4
FREE

農業と福祉にまたがり活動
白井健太郎さん



インタビュー interview



子どもの就労体験を支えるボランティア

杉山 雅枝さん

● 団体PickUp!

「図書館を飛び出し、人とまちをつなげる」
新潟県中越図書館委員会(仮)

「支え合いの子育てで住みよい地域に」
まちづくりピース

「アートとヤングパワーで長岡を盛り上げる」
スプリング組合

「赤屋根のシンボルを次世代へ継承」
水道タンク友の会

● 長岡企業のソーシャルアクション!

「地域貢献で内部コミュニケーション活発化」
株式会社パートナーズプロジェクト/未来づくりユニット

● みんなの声

投稿テーマ「気がつけば春。〇〇に感じる春の到来。」

コライト、見ないと!

コライト

検索

ながおか市民協働センターは、地域をより良くする市民の活動が集まる拠点です。協働センターのwebサイト「コライト」では、市民が行うイベントや助成金などの情報を幅広く掲載しています。らこらでのバックナンバーも閲覧できます。ぜひご覧ください。

らこら 2017.4.3 (vol.52) FREE 【発行】ながおか市民協働センター

〒940-0062 長岡市大手通1丁目4番地10 シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3F
Tel.0258-39-2020 Fax.0258-39-2900 Mail. kyodo-c@ao-re.jp http://nkyod.org

配布場所 長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。



白井健太郎さん〈38歳／農業者〉NPO法人 思いのほか／えくぼクラブ／ながおか農challeプロジェクト実行委員会／他

必要に迫られて始めた福祉と農業の活動 続けることで見えてきた自分のカタチ

長岡市の越路地域にある農業生産法人で働く白井さんは仕事の傍ら、主に2つの活動に取り組んでいます。1つ目は、2012年から参加している、ダウン症の子供を持つ親の会「えくぼクラブ」。2つ目は農業と食卓をつなぐイベントを企画運営する「NPO法人 思いのほか」です。

「えくぼクラブに参加したきっかけは、次女が障がいをもって生まれたことです。それがなければ、福祉に興味を持つことはなかったかもしれません」。同年に始めた農業活性化の取組みも、「農業に対する閉塞感を打開したい」と、どちらも必要に迫られたのがきっかけでした。

白井さんは、何かと「副」の付く立場を任せられることが多いそう。「僕は調整やつなぎ役が得意なので、何でも屋としての裏方が多いです。昨年からは始めた世界エダマ

メ早食い選手権も副委員長を勤めています」と話します。お母さんの出る幕が多かったえくぼクラブでは、お父さんの関わる場もつくと「親父の会」を立ち上げ。さらに、障がいをもった子どもたちと一緒に野菜を育てる「えくぼ農園」をスタート。NPO法人 思いのほかでは、イベントの実動部隊として活動を支える縁の下を力持ちです。

活動を続けるうちに、地域行事の運営や、お父さん向けの子育てサロンなど頼まれことも増加するようになりました。「複数の活動を面倒と思う人もいますが、僕はムダなことではないと思っています。後押ししてくれる人も出てくるし、本業のヒントも得られます」と、二つ返事で引き受けています。今後は、農業と福祉をつないだ活動がしたいと話す白井さん。自身の本業である農業を軸に、新たな可能性が広がっています。



●上:「えくぼ農園」では、さつまいもの植付けや収穫を通して子どもたちが土に触れる機会を提供 ●左下:プライベートでは3児のお父さん ●右下:NPO法人 思いのほかでは、農家や料理人などがコラボし、丹精込めて作られた野菜を物語と一緒に味わえるメニューづくりやイベントを開催



杉山雅枝さん〈65歳／元小学校教員〉ぶれジョブながおか

巡りあわせから、私にしかできない役割を見つけて 今も昔も「子どもの成長」が何よりの原動力です

地域社会の中で障がいのある子どもの就労体験を行う「ぶれジョブ」。子どもの就労体験に付き添い、一緒に作業しながら活動を見守るボランティアの「サポーター」さんが活躍しています。杉山さんがぶれジョブサポーターを始めたのは59歳のころ。小学校教員や児童館厚生員など、子どもと接する仕事に長年取り組んできた経験を買われ、関係者から「やってみない?」と声を掛けられたことがきっかけでした。

ボランティアどころか、障がいを持つ子どもと密に接することすら初めてだった杉山さん。接し方や信頼関係の築き方に不安を抱きつつも、「せっかく頂いた機会。やってみようかな」とチャレンジしてみることに。始めてみると、教員時代に培った『観察する』というスキルが活動に活かされたと言います。

「障がいがある子は、それぞれ何かに強

いこだわりを持った子が多いのですが、伝えることが特に苦手です。気持ちに寄り添うには一人ひとりをしっかりと見つめなければいけません。

ぶれジョブでは、ひとりの子どもに対して4人のサポーターが入り替わり担当しているため、引継ぎにいつも苦労していました。その子に合わせた接し方を共有する必要を感じた杉山さんは、平成28年よりサポーター間をつなげる「コーディネーター」役を引き受けました。持ち前の観察力で気づいた子どもの気持ちや変化を、サポーターと共有することで活動を支えています。

今も教員時代も一番の喜びは「子どもの成長する姿を見られること」。これからも身体の動く限りは活動を続けて、成長を見守りたいと笑顔を見せていました。

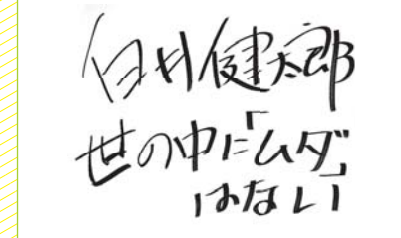


●上:就労体験に付き添う杉山さん。手を差し伸べる適切なタイミングを見計らいます ●左下:場所によって就労体験の内容は様ざま。普段は入れない仕事場の裏側を見られることも、活動の楽しみにつながっています ●右下:児童館厚生員のころ。11年間にわたって勤めました

profile

- 1978年 越路地域の神谷の農家に生まれる。小学校の時、怖い先生が農業の授業を受け持ったお父さんのことを先生と呼ぶ姿に農業への憧れを抱く。
- 1998年 新潟県農業大学校を卒業後、渡米。多国籍な人たちと畑で過ごし、大規模農業について学ぶ。
- 2004年 現職、農業生産法人神谷生産組合株式会社に就農。
- 2009年 長岡青年農業士会に所属。その後32歳からは、えくぼクラブやNPO法人 思いのほかにも参加。

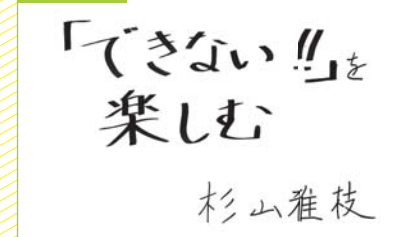
活動の根っこ



profile

- 1952年 東京都に生まれる。
- 1970年 大学へ進学。幼いころの経験から「学校を居心地のいい場にした」と志し、教育方法を学ぶ。
- 1976年 結婚を機に新潟県へ。以来、長岡市内で小学校臨時教員、児童館厚生員として勤める。
- 2015年 小学校臨時教員を退職。2011年より続けていた「ぶれジョブ」の活動に専念する。

活動の根っこ



団体PickUp!

「つながるラジオ」で取材した団体をご紹介します

生の声は「ラジオ」「コライト」で!

新潟県中越図書委員会(仮)

「図書館を飛び出し、人とまちをつなげる」



中越地域での図書文化を盛り上げることを目的に、誰もが本を通して自己表現の出来るイベント「一箱古本市」や、本を通してコミュニケーションを図る様々なワークショップを行っています。「本のイベントをきっかけに中越に訪れる人が増えれば」と話すのは、以前は学校司書としても勤めていた代表の目黒さん。これからも定期的に開催する図書イベントで本・ひと・まちの関係を紡いでいきます。

スプリング組合

「アートとヤングパワーで長岡を盛り上げる」



平成27年から長岡のまちなかで行われているアートイベント「ヤングアート長岡」の学生実行委員会として、今年から組織されました。授業でも学ぶ「デザイン思考」で特に大切な、「問題解決」の方法について現場で実践できる貴重な機会です。今回は新たな試みとしてゲストアーティストの招聘などを行いますが、これからも意欲的に新しいことに挑戦していきたいです。

まちづくりピース

「支え合いの子育てで住みよい地域に」



阪之上地区のお母さん達を中心となり、子育ての経験を通して、次世代のお母さん達のサポート、イベント企画、親子の憩いの場を提案しています。ママ達が気軽にしゃべりできる「ピースカフェ」や子育ての駅ぐんぐんで行った「子育てを癒すゴスペル・ワークショップ」など、それぞれの経験を活かし、地域で支え合いながら子育てができる環境を目指して、楽しく活動しています。

水道タンク友の会

「赤屋根のシンボルを次世代へ継承」



水道公園(旧中島浄水場)にある水道タンクを始めとした歴史的建造物の数々を、交流が生まれる地域づくりの場として育てつつ、次世代に継承することを目指して活動しています。平成21年からは「子どもの日」に合わせて「水道公園子どもフェスティバル」を開催し、寄贈により集まった280匹の鯉のぼりを空に泳がせています。見学に来る小中学校なども増え、着実な認知の広がりを感じています。

長岡企業のソーシャルアクション!

地域活動を支える企業をご紹介します

株式会社パートナーズプロジェクト/未来づくりユニット

地域貢献で内部コミュニケーション活発化

多様な専門家が集まる強みを活かし、地元企業を多面的にサポートする、株式会社パートナーズプロジェクト。グループの若手スタッフで「未来づくりユニット」を結成し、平成27年からボランティア活動に取り組んでいます。雪国植物園で雪割草の植え付け作業や、長岡赤十字病院での車椅子清掃を実施。企業間コミュニケーションを図りつつ、仕事とはひと味違った社会との関わり方で、チームワークを高めています。

